

おとなについて どう思う？

ある時、活動のなかで、ひとりの子どもがふと洩らした言葉が私たちの心につきさりました。それは、『大人って思っていることと違うんでしょ』という言葉でした。子どもたちが真実を見抜く力があることを知らないわけではありませんでしたが、そこまではっきり言われて心がざわついたのです。とりえず私たちは、子どもたちが大人をどう思っているのかを聞いてみることにしました。

子どもたちにきいてみました

- ①まわりにいる大人についてどう思う？
- ②大人で気になる人はいる？
- ③大人で気の合う人はどんな人？



- ①普段は何も感じないけど信頼している人以外は時々うざい(うっとうしい)。親も例外ではない。でも信頼している人はなぜかそういう負の感情はうかばない。自分でも予想不可。
- ②いる。裏表の無く表面だけではなく、個人個人をちゃんと見てくれる人。大人子どもに関係なく接してくれる人。皆を平等に接してくれる人。
- ③おおらかで包容力のあり、ユーモアもあるすべてを持ち合わせた人。今のところ2人。(11才)

- ①就く仕事をしっかり決められて、毎日働いていてすごいと思う。最近私が進路に迷っているから余計にそう思うのかもしれない。
- ②先生や親で、指示してくるのに日によって言うことが違う人は気になる。言うことが定まっていないのなら指示しないでほしい。
- ③意見を聞いてくれる人。あと気を遣いすぎずに話かけてくれる人。(18才)

- ①尊敬するなって思う人もいるけど、ムカつく人も沢山います。
- ②部活の顧問が気になる。どうしたらあんなに嫌な奴になるんだろうと思ったから。
- ③面白くて一緒に話して楽しいと感じることができる人、自分の事を理解してくれる人など(15才)

- ①尊敬できる人もいれば、この人になりたいくないって人もいます。
- ②別にいない。
- ③干渉してこない人。(16才)

- ③対等に見てくれる人です。(18才)



- ①考えたことないけど、やることがいっぱいで、大人は大変そう。
- ②分からない。
- ③習い事の先生やコーチ。でも、嫌な人もいるから。(12才)

- ①お母さん以外優しい。
- ②気になる、がちちょっとわからない。
- ③お父さん。(11才)

- ①いい人やいやな人がいる。きびしい人も多いけどやさしい人もいます。
- ②いない。
- ③やさしい。好きな物がいっしょ。(10才)



- ①特に考えたことはないが、家族などは当たり前にいる存在。
- ②芸能人などではいるけど、周りはいない。
- ③お母さんの姉や、妹。(12才)



- ①なにも思わない。
- ②いない。
- ③お母さんは機嫌が悪い時があるけど大体の大人の人はいい。(9才)

- ①子どもとはちがうと思う。言うことも行動も違う。しっかりとして冷静な感じ。
- ②いないかな。
- ③自分と話があったり、一緒にいて楽しい人。気軽に話せる人。(15才)



- ①いい人もいれば合わない人もいます。
- ②ジャッキーチェンとスパイダーマンとサッカーのコーチ。
- ③ぼくに話しかけてくれる人が気になる。ぼくの事が好きなんだなーって僕も好きになる。怒鳴る大人は嫌い。ただのいかりの人だから。(7才)

- ①自由人。好きに時間をつかえていいと思う。
- ②いない。
- ③部活の顧問。友達のお母さん。(13才)

- ①好きなときにビールを飲んでいてずい。子どもにはごはんのときジュースをくれないのに。
- ②先生が、集めたプリントを数えてと命令してくるのが嫌だ。
- ③おばちゃん。ゲームをかしてくるから。(7才)

- ①特に何も思わない。
- ②特にいない。
- ③話をきちんと聞いてくれる人。(17才)



- ①みんな優しい。
- ②学校の先生。宿題をしていかないと怒るから、そこがちちょっと気になる。と言うか怒ってくるのがやだ。
- ③友達のお父さん。(11才)



親は全然わかってない

高2の息子に今回のテーマについて聞いた時に、私は何とか答えを引き出そうという質問を重ねました。すると、息子は面倒そうに「あのね、この際だから言うけど、母さんの質問に本音でなんて答えないから」と言われてしまいました。これまでの経験から、「本音で答えると母さんがキレたりして面倒だから」、本音では答えないと言うのです。

中学生の時は学年が上がるに連れてとどろん話さなくなっただけで、高校生になって少しずつ口数も増えてきて、私は話してくれるようになったと勝手に安心していました。でも話しているからといって、本音と話しているとは限りません。親は子どもの事を分かっているつもりでいるけれど、それは勝手な親の思い込みで、本当の子どものことなんて実は全然分かっていないのかもしれないと思いました。(下村)

ドイツ(ハノーファー)便り 39 青井 陽子



今日、健康診断で名前を呼ばれて思わず人差し指を立てて(レストランとかで、もう一杯くださいって時のあの手の形です)返事をしてしまいました。日本人が普通に手を挙げるあの動作がドイツ人にとって嫌な感じを与えてしまう事はもうお伝えしてましたか？

向こうのレストランでは、ファーストフード店や屋台でない限り、注文を取りに来てくれるのに時間がかかるということが普通にあって、その間おしゃべりしながら気長に待ちます。お腹がすいてから出かけてしまったわたし達は、日本でよくみかける「店員さんを呼ぶボタン」もないし、手を挙げて何としても店員さんに気づいてもらいたかった。



家族四人でアピールしまくったら不機嫌に近づいて来た男性の店員さんに、「ヒトラーの敬礼だからやめてくれ」と言われ、その後の対応もひどく冷たいものでした。もちろん、こっちはチップなんて置いていきませんでしたが、その後、ドイツでは学校でも同じ理由で挙手はタブーだと知りました。

ドイツに限ったことではないですが、向こうではおしゃべりしながら時間をかけて食事を楽しむのが普通です。日本に帰国してすぐに食べに行った回転寿司屋さんでのこと。カウンター内にいる寿司職人さんに注文を伝えたら、以前はなかったタブレットがテーブルに置いてあって、「それで注文してくれ」と言われ、ちょっと引いてしまいました。タブレットのおかげで色々和管理しやすくなるのだろうけれど、何だかコミュニケーションまではしょっちゃって、寂しいもんだと思いました。

私とスペース 水谷真紀子さん

スペース(前身みなみのこども劇場)に入会したのは、息子が小4の頃でした。その後数年は、活動に参加していましたが、家庭の諸事情と、息子が成長するに伴い、徐々に疎遠になっていきました。

それから10数年が経ち、息子夫婦に赤ちゃんが誕生する事になりました。その頃から私は、スペースに戻りたいと思うようになり、今に至ります。

先月、無事赤ちゃんが誕生し、私もおばあちゃんになりました。これからは、子育て真っ只中のお母さん達と交流できる事も楽しみに、活動していきたいと思えます。

スペースは、私のように離れてしまった人でも、温かく迎えてくれる、そんな素敵な場所です。



インタビューを終えて...

今回インタビューをしてみて一番感じた事は、低学年は思った事をそのままスッと答えますが高学年になるにつれ自分の気持ちをそのまま出すのではなくよく考えてから回答していると感じました。こちらの気持ちを汲み取ってそれに沿う回答をしようと考えてるように思いました。(平石)

子どもたちに話を聞いてみて、何と答えればいいのか迷ったように話す子どもの様子が印象的でした。しかし私がなぜそのように感じたのか考えてみると、それは私自身が子どもたちに何らかの答えを期待していたからだに気がきました。「特にない」「わからない」という返答が受け入れられず、何とかして『答え』を引き出したいと思っていたのです。何でも話してねと言って両手を広げたとつもりだったのに、実はその幅はとても狭かったのだと気がきました。(藤吉)



ゆうこの部屋

「オニのサラリーマン じごくの盆やすみ」

富安陽子/文 大島妙子/絵
福音館書店 1400円+税



オニのサラリーマンことオニガワラ・ケンの勤める地獄は、亡者たちが里帰りするお盆は年に一度の大掃除。ブラシをかけた、針の山の針をみがいたり大忙し。ところが血の池地獄でかい堀りをしていたオニガワラ・ケン、大切な金棒を落とし...

どうする？オニの父ちゃんの第三弾。そうか、お盆は地獄も空っぽだね。甚兵衛姿もかわいい。今回も笑っちゃう。(野崎)

7月のスペース

7月中旬を過ぎると兎に角スペースはあついで！梅雨が明け、夏休み、そして、8月10日公演のパズルの準備とスペースの乗車率は200%になることもあります。パズルの大道具、小道具、衣装系のスタッフたちも大忙し。空き箱をきれいにラッピングしたり、アイデアを出し合い、段ボール、チューブなど使って様々な形に作り上げていきました。スペースに居合わせた大人も小さな子どもたちも興味津々で手伝っていました。もちろんパズル参加者もビデオを見ながらお互いに確認しあい完成度を高めあっていました。「イヤリングはどうしよう？」とか衣装に合わせたチェックも欠かしません。

ずっとパズルの舞台を見ていると毎回成長していくメンバーに会うのが楽しみです。「これ、お団子に見えるかな？」と小道具係もクオリティを高めてきました。今作成中の小道具たちが当日どんなふうに登場してくるのかも楽しみです。(吉田)



*この欄は事務局のメンバーが交代で書きます。